

権力の暴走を許さない。
その先頭に立つ。



野党議員が抗議する中、委員長席を取り囲み、採決を強行する与党議員

政府提出の安全保障関連法案が参院安保特別委員会で17日夕、与党の自公両党議員らの強行採決により可決されました。

民主党はこれまで、同法案が、立憲主義に反する勝手な憲法解釈変更によるもので、専守防衛の原則から明らかに逸脱していると追及してきました。また審議を通じて、安倍総理が集団的自衛権行使を必要とする事例の説明も、ことごとく崩れています。このような中で法案の採決は許されないと、民主党など野党は主張してきましたが、鴻池委員長は職権で委員会開会を強行しました。午後1時から開かれた委員会で鴻池委員長の不信任動議が否決された途端、突然与党議員が委員長席を取り囲み、野党議員が抗議する中で採決が強行されました。

この法案は立憲主義違反で憲法違反の代物だ

与党は採決されたと称しているようですが、この法案は、立憲主義違反、憲法違反。そもそも違憲であれば無効です。手続き的にも瑕疵(かし)があり、十分な審議が尽くされていない上に、先ほどの参院の安保特別委員会での状況から、これをもって採決がなされたなどと言えるような代物ではありません。

今後は、衆参を越えて、党を挙げて成立阻止に向けて努力を重ねていきます。



枝野幸男幹事長

戦後70年の日本の平和ブランドを覆す安保法案

安保法案を自公が強行採決!!

集団的自衛権を行使せずに 日本の平和を守る

民主党は専守防衛に徹し、
「近くは現実的に」「遠くは抑制的に」
「人道支援は積極的に」という基本理念に基づき、
わが国の安全保障に万全を期してまいります。

女性たちの声を聞き、十分な審議を



委員長職権で一方向的に安全保障関連法案の締めくくり総括質疑を行うことが決められた16日晚、参院の安保特委理事会室前には、「怒れる女性議員の会」と書かれた鉢巻きを締めた野党の女性議員らが集まり、「公聴会の公述人に女性は一人も選ばれていない。女性たちの声は届けられていない。女性たちの声を聞き、十分な審議を」として、鴻池委員長に要請を行った。

こんな状況で採決などありえない

安保法案成立反対の声が6割

報道各社の世論調査を見ても、国民の安保法案への理解は深まるどころか、日を追うごとに成立反対の声が高まり、今では約6割に達しています。また約8割の人たちが安倍政権は安保法案の説明を十分にしていなと答え、今国会での成立に反対しています。

審議時間100時間近くで 中断は110回以上

15日までの参院安保特別委員会での審議時間は100時間近くになりましたが、議論は深まらない上に、関係閣僚の答弁は2転3転し、審議の中断は110回以上。とても採決できる状況ではありません。